

# ハイマート Heimat ぐんま日独協会会報

1996年 3月18日 発行

## 13 創立8周年 記念号

発行者 平形義人

発行所 ぐんま日独協会

〒371 前橋市三俣町3-11-12

☎0272-31-7212 FAX0272-32-4082



・ぐんま日独協会クリスマスの集い

・平成7年12月9日

・群馬会館地下食堂

### ■ハイマート13号の主な内容■

- 本年度行事のあらまし…………… 2
- 9月 ザイフェルト教授講演会…………… 2～3
- 12月 クリスマスの集い…………… 4
- 会員のお便り・料理紹介…………… 5～7
- ニュース・催しの案内…………… 8

\*お知らせ\*

### ぐんま日独協会8周年記念大会

- ・日時 '96.4.14(日) PM1:00～4:30
- ・場所 高崎労使会館2F TEL0273-23-1598
- ・費用 参加費1人2千円及び平成8年度会費  
(個人3千円 家族5百円 法人1口1万円)を  
同封の振替用紙にて4月6日までに振込み下さい。  
欠席の方は年会費のみ
- ・当日は道正邦彦氏(東京日独協会評議員)の講演会  
(PM2時～4時)も行なわれます。  
多数の皆さんの参加をお待ちしております。
- ・駐車場完備、8Pの案内・地図を参照。

題字：平形義人 表紙写真：角田 勤

# ぐんま日独協会 8周年記念大会へどうぞ!!

会長 平形 義人

皆様に支えられて、当協会も設立8周年を迎えました。来る4月14日、高崎市労使会館（高崎駅新幹線口から北へ線路沿いに徒歩5分）にて大会を催したいと存じます。ゲストは福田内閣の官房副長官でハイジャック事件担当の道正邦彦（どうじょう くにひこ）先生です。テーマは『ドイツと私』。若くして労働省から西ドイツ日本大使館書記官に勤務されて以来の豊富な体験談が聞かれると存じます。公開講演（無料）PM2～4。何卒多数お誘い合わせて御出かけ下さいませ。（8P参照）

会員の皆様にはその前後に総会と懇談会がございます。日独交流の源泉となる“ドイツ好き”の触れ合の機会でございますし、「役員の改選」もありますので是非御出席をお願い申し上げます。

次にハイマート12号に引き続き昨年後期のハイライトを列記します。

'95. Sep. 4.

植村理葉ヴァイオリン・リサイタル後援（文化庁派遣ドイツ留学帰国記念・前橋市民文化会館）

Sep. 29.

沼田市・フェッセン市姉妹都市締結なる。（於フェッセン市・久保理事夫妻出席）

Sep. 30.

W. Seifert ハイデルベルク大学教授講演会を松浦高崎



1995.9.29 沼田・フェッセン姉妹都市締結

ぐんま日独協会会報 国際交流まつり  
号外 1995. 10. 22

**国際交流まつりおめでとう!**  
ぐんま日独協会は「ドイツ好き」が集まって1988年4月に誕生した。毎年、いろいろな楽しい行事があります。ドイツ大使ご夫妻を迎える大会や講演会。楽しいクリスマスの集い。春秋には会報(1000部)を発行します。その他、ホームステイ、ゴルフコンペ、ドイツ語講習会、会員著書の紹介、交換学生などの後援をしたり、さらにベルリン森跡外記念館保存カンパなど日独文化事業に協賛し、日独友好親善に努めています。今日は、テント内において、「ドイツよもやま話」の座談会を行いますので、ドイツに興味や関心のある方は、お気軽にご参加下さい。  
am. 11.00 pm. 2.00 pm. 3.00  
話相手…平形 義人（会長） 佐藤 進一（副会長）  
角田 勳（副会長） 対馬 良一（常任理事）  
土屋喜代子（常任理事） 田口久美子（常任理事）  
北爪 和男（常任理事） はか



国際交流まつり

市長、県国際交流協会勅使河原常任理事の応援を得て高崎市労使会館で開催。

Okt. 3.

“ドイツ統一の日”大使公邸レセプションに平形会長出席。

Okt.22.

県国際交流まつり（敷島公園）に参加

Okt.24.

日本ロマンチック街道友の会設立される。（会長中沢晃三協会顧問）

Okt.30.

ドイツV.R.W州フロントライン'95セミナーに平形会長須郷副会長参加。

Des. 9.

ぐんま日独クリスマス。(4P参照)

## W・ザイフェルト教授講演会報告

高崎市 須郷 登世浩



教授 ヴォルフガング ザイフェルト (Prof. Dr. Wolfgang Seifert)

の「ドイツから見た今の日本」と題する講演会は、昨年9月30日(土)午後2時から、高崎労使会館において行われた。ぐんま日独協会の行事が高崎で行われるのは初めてのこと。会場の設営やチラシの作製、講師の送迎や接待など、事務局の沢井様はじめ役員の方々のおかげで、90名近い参加者を得て、盛大に催すことが出来ましたこと、ホストの一人として厚く感謝いたします。

当日は、高崎駅に平形会長とドイツ国旗を持ってお迎えし、観音山を回って、昼食会場の少林山へ向った。達磨寺で行われた昼食会には松浦高崎市長、勅使河原様はじめ平形会長、角田、井口、北爪、対馬、高寺、白倉、須郷の役員らが出席、普茶料理を味わいつつ講師と親しく歓談した。

講演会場は、労使会館であった。申し込みの時点で他の適当な会場はいっぱい、やむなくここに決めたが、高崎駅に近く、バスの便もよく、新築間もない建物とあって皆様から喜ばれたようだ

講師のザイフェルト教授は、ボンやフランクフルト、東京の大学で政治学、社会学、日本学、哲学など学ば



れ、フランクフルト大学で政治学博士を得られた。幅広い知識や体験を踏まえて、ドイツと日本とのかかわりを、よどみない日本語で語られた。ドイツ大使館からの案内には、演題は「ドイツ国内議論に登場する『日本』の機能化

と、その肯定的、否定的側面」とあったが、分かりやすく「ドイツから見た今の日本」という簡単な題にしていた。

午後2時より講演会が始まった。はじめに進行役の



少林山達磨寺の玄関にて、高崎市長とザイフェルト教授を囲んで。



右よりザイフェルト教授、須郷副会長、平形会長、豊泉常任理事  
私が今までの経過を説明し、次いで平形会長の挨拶で  
本題に入った。

その大要は、1992年頃からとりあげられるようになったドイツの産業立地論争と、その中で日本経済・社会の制度・機関がドイツのモデルとしていかに利用されているかについて話され、日本における省コスト的生産手段や企業内での共通、かつ絶え間ない「改善」努力を強調され、労働時間短縮の議論、それとの関連で、日本における労使の協調、儒教的労働モラル、企業内組合などが、ドイツの経済構造に有効かどうか、疑問を投げかけ、日本を美化されたモデルに仕立てることは、ドイツにおける日本像をゆがめているであろうと論じられた。

講演後、質疑応答があり、豊泉常任理事の感謝をこめた閉会の辞のあと玄関前で記念写真撮影を行い、無事終了することが出来た。

## ぐんま日独協会の講演会を拝聴して

高崎市 安藤 文夫

前略

過日はぐんま日独協会の講演会にお招きいただき大変参考になり、有り難うございました。

たまたま月間「選択」に今度は日本からみたドイツに関する記事が掲載されておりましたので、その要点だけをワープロで整理してみました。

ドイツはあれだけ高コストの国で、しかもマルク高にもかかわらず、なお成長をしております。それに引き換えわが国は超円高なのかも知れませんが、不景気に悩んでいるとは対称的です。

それにしてもドイツの抱えている諸問題は即日本にも当て嵌まるような気がします。

日本から見たドイツは、ヴォルフガング・ザイフェルト先生の見解とは違うかもしれませんが、ご参考までに。

### 1 「高コスト」に高まる未来不安

a 「現在のままのドイツでは未来がない」と、学者でも、評論家でもない、政治家コール首相が心配している。

b 理由は、ドイツが世界で一番コストの高い国になったからである。

G7の中で1時間当たりの平均労働コストをみると、ドイツが25ドル(93年)と飛び抜けて高い。それに続くのは日本、米国、フランスなどで16~15ドル台である。コスト高とは、その国の「贅沢度」と言い替えてよい。

25ドルと15ドルとの差は、ドイツ人と他の先進諸国民があらゆる面で享受している贅沢度の違いだと解釈し得る。

単に賃金だけでなく、労働時間、有給休暇日数、年金を中心とした社会保障の諸手当、都市、住宅の質、大学までの教育の無償、インフラの完備など、市民生活のレベルが量的にも質的にも他の先進諸国より高いということである。そのことがこれまでのドイツの政治の目標であったし、その解決に成功してきた。

### 2 「ドイツ的贅沢」=「高コスト」への反省

a ドイツの商店は5時半または6時半に閉店を義務付けられ、土、日曜、祝日は営業できない。例外は毎月の第一土曜日とクリスマス前の4回の土曜日ぐらい。

b 89年にコール政権が「サービスの夕べ導入法」という法律を制定し、木曜日のみ商店の午後8時半までの営業を許した。

c この「閉店法」は連邦法で、過去20年余、改正、廃止、強化など議論され続け、この夏休み明けとともに改正議論が始まった。

この法律の立法精神は270万人の商店労働者を時間外労働から解放しようとする贅沢の一つであるが、それが週末を静かに楽しむというドイツ流ハイクオリティ・ライフの原イメージにもなっている。しかしそのことで、GNPを1マルクも高めてはいない。

b ドイツ人の住宅は堅牢で設備万端整っている点では世界一、耐用年数は100年を想定している。この国の建築関連法は詳細を極めていいる。

社会的コストを下げるためには、100年を30年にしても十分。最近人口の交流、難民の流入で住宅不足。大都市のアパート代が2、3倍に跳ね上がっている。

### 3 「高コスト」が影響する経済的損失

a ジーメンス社は欧州最大規模の半導体新工場をドイツ国内ではなく、英国のニューカッスルに選定した。ざっと20億ポンド(約3200億円)がイングランド東部の古い工業都市に流れ、1500人の新しい雇用を生んだ。これは企業が負担する社会的コストが余りにも高いからである。

b ドイツではタイムラーベンツを筆頭に売上高上位20社のうち15社までが雇用を削減している。ドイツ企業は労働コスト削減に血の道を上げている。

### 4 ここでドイツが今反省しなければならない問題

a 国際特許取得数の日独比較

73年には年間約6000件と両国は相拮抗していたが、92年になると日本は1万4千件、ドイツは4500件と大きく開いた。

技術立国のドイツが技術コンプレックスを植え付けられた。

b 反省しなければならない諸点

1 パートタイム労働を嫌う風潮

2 大学卒業者の半数が公務員志望という安定最優先思考

3 大学卒業の平均年齢が30歳を越すという教育界の甘え。

c ドイツの意識改革を妨げているもの

1 95年現在のドイツの年間実質成長率 3% (旧東独部分は9%) EUでトップクラス 失業者 約380万人 率で最低 マルク高に抗して輸出は好調 社会的国家秩序のいかなる変更にも反対する勢力はまだまだ強大で、社会に根を張っている。

5 21世紀の世界の変化はドイツの現状楽観を許さない。

1 太平洋・アジア地域の成長

2 東欧諸国の低賃金を武器とする復活

6 結論 生活レベル・ダウンを目指さねばならないドイツ  
月刊誌「選択」10月号より

## Xマス・パーティの集い

高崎市 伊藤 廉平

1995年12月9日ぐんま日独協会主催によるXマス・パーティが群馬会館地下食堂において開かれ、和やかな一時を過ごしました。



美しく飾付けられたXマス・ツリーを背景に平形会長の挨拶、そして角田副会長の司会、前橋市の遠藤部長の乾杯、共愛学園の上原先生のおんぎ歌で始まり会はスムーズに進行いたしました。

本年は来賓として衆議院議員の尾身幸次先生ご本人が出席され祝辞を頂戴いたしました。又、佐田玄一郎衆議院議員（秘書）もご出席になり当協会に対するご配慮の深さを痛感いたしました。

会もたけなわに近づいた頃、赤いサンタの衣装をまとった、サンタ・クロースのおじさん（実は井口理事）が大きな袋を背負って会場に現われ、プレゼントの品々をとどけて頂き、クジで全員に配布いたしました。

老若男女を問わず全員が童心にかえり、温かい贈り物に感謝いたしました。おみやげの素敵なシクラメンの小鉢は中村鉦一局長のご好意でした。



又、今回のパーティには福田朋英会員の紹介で高崎市からソプラノ歌手の本島佐知子さんがお見えになり素晴らしい美声で本格的ドイツ歌曲を独唱していただき、私共一同、大きな拍手でお答え致しました。

本島さんは国立音楽大学声楽科を卒業後にウイーン国立音楽大学に留学され、国内はもとより国外でも多くの賞を受けられています。今後も国内およびヨーロッパ各地のコンサートにも出演される予定です。



続いて個人別の自己紹介がありました。

それぞれのお話しを承っていると、多くの会員の皆様方が、ドイツと何らかの関係を持たれており、群馬県という、一地方にあっても国際化の波が押しよせて、海外との友好親善の必要性を強く感じました。

1996年もXマス・パーティを開催する予定であります。その時は会員の皆様、およびご家族の皆様が一人でも多く参加される様にお待ち申し上げる次第です。

●クリスマスの集いにて『森の小さな美術館』を紹介して下さった沼田市の野中真理さんのお便りです。

### “ミヒャエル・エンデ”が 教えてくれたこと

ドイツの童話作家「ミヒャエル・エンデ」が他界して1年の歳月が流れようとしています。“はてしない物語” “ジム・ボタンの冒険”そして“モモ”などの名作を数多く遺し、エンデは「永遠の旅」に発ってしまいました。

人間の欲望は苦しみ、悲しみ、そして憎しみを生み出します。人はその思いを穴埋めしたいが為に人を傷つけ、機械に頼り「大切なもの」を錯覚して、偽りでできた「平和」を手に入れようとしています。

しかし、その瞬間にもモモが命がけで取り戻してくれた「時間」が流れていることに気づかないのでは無いでしょうか。

モモの暮らす円形劇場は「平和」に包まれていました。ある日、「時間どろぼう」が現われ人々の時間を奪い始めます。時間どろぼうたちは大人の欲望を見逃しません。欲望のために「時間」と「偽りの平和」を取引してしまった大人たちの代償を想像してみてください。

「時間」とは何でしょうか。辞書にはこのように記されていました。

①ある時刻と他の時刻との間の長さ ②時間の長さの単位 ③空間と共に、物体界を成り立たせる基礎形式。普通過去から未来に絶えず移り流れると考える。

過去から未来へ、平和でない世の中から平和へと望み続けるのが人間だと思います。また未来に希望の光を輝かせるために、今という時間を生きているのではないのでしょうか。

本当の平和とは、時間とは何なのでしょう。それを考えさせてくれたのがエンデの童話でした。

共に耳を傾けてみませんか。永遠の旅に出かけているエンデの声が、エンデの作品から今も聞こえてきます…  
ありがとう、エンデ。どうか安らかに眠り下さい。

## 〔ドイツ便り〕所感

日本精工株式会社 小林 秀一

その後、皆様にはお変わりなくお越しの事と存じます。私、先月初旬に出張にて、ドイツを5年ぶりに訪問する機会を得、ハンブルグ、ベルリン、デュッセルドルフとシュツガルトを訪れて参りました。デュッセルドルフは、前回の駐在員時代、約9年を過ごした町で、懐かしさひとしおでございました。この町は、ドイツ人からは、日本のコロニーと呼ばれている町で、日本のドイツ進出企業の恐らく8割以上が居を構えているところである事、ご承知の事と思います。今回の訪問を通じ感じた印象は、ここにもバブル崩壊の波が影響し、80年代後半よりやや寂れてきたかなという感じが致しました。ただ、夏休みの季節であった為、尚更その様な感を抱いたのかもしれませんが。いずれにしろ、この町は、その性格がルール工業地帯の中心銀行都市で、かつ日本進出企業の集中した都市である事には変化はありません。ハンブルグは、エルベ川の河川港の性格をそのまま残し、ヨーロッパ最大規模のコンテナ基地、エルベ川に架かるヨーロッパでも最も高い橋に象徴された港町の息吹を感じさせてくれました。また、ハンブルグ空港も大整備され、ドイツで最古の空港のイメージを一新しておりました。ちなみに、飛行船のヒンデンブルグ号はこの空港を基地としていたと聞き及んでおります。ベルリンの町は、前回訪問が89年4月と壁の崩壊約6か月前で御座いました為、恐らく5年後は面目を一新しヨーロッパの中心都市に成る事を伺わせるに十分な、かつ、ダイナミックな息吹を感じさせてくれました。旧西ベルリンは従来の活気を呈しているのは当然として、ウンターデンリンデンを中心とする東ベルリン側での都市整備工事の進捗状況を目のあたりにし、前述の感想を抱く事に成りました。同時に、ゲルマン民族のダイナミック性と計画性が伺われ、その工事の規模は恐らく前橋市に例えれば市街地全域にわたり、地下鉄、道路、建屋の工事が展開されている様な規模に相当するものと思えます。6年前は、西ベルリンはドイツ人の町というよりトルコ人の町との印象が強かったのですが、今は、ドイツが彼等の威信をかけて将来の首都づくりに精力を傾けているのが、よく分かりました。

やはり、9年間お世話になった国に対する思い入れは強いものがあり、今回の訪問でも、英国からドイツへ入国すると何故か母国に入国した様な安心感を抱きました。英国の伝統をまもった町造りは、それ自体たいしたものとは考えますが、ドイツの町造りに対し、暗さを感じるのも否めない事実で、ヨーロッパは東欧圏の発展と共に、ドイツ中心に動いて行くものと考えるのは、私一人では決してないと考えます。

残暑厳しき折、ご自愛戴きますよう。本日はとりとめなき事お書き致しました。

(1995, 8, 30.記)

## …クリングゲさんのこと…

前橋市 佐藤 進一



5月26日 ホテルロビイにて  
前列右より2人目クリングゲ氏隣りは小生

Guenther Klingeさんはバイエルン州の名誉上院議員 (Senator h.c.) であり、独日協会会長でもある。昨年ザールブリュッケンの独日協会総会の議長をつとめられた方なので、ご挨拶の手紙を出した所、立派なクリスマスカードを頂いたので此処に披露する。紙面では小さいが実物はキャビネ版の油絵で富士山の日の出を描いた立派なものである。裏面には短詩型の俳句が添えてある。Mit nur einem Wort, Das neue Jahrbeginnen. Es best umschliessen. これを私流に和訳すれば「年頭に唯一言(ひとこと)の戒めを」となる。もっと良い訳があれば教えて欲しい。



このカードに感激した私は御礼のしるしに高崎のだるまを送った。小さなだるまでも心が通じれば良いと思った。暫くすると今度は自著の俳句集「イカルの夢」を送ってこられた。これには加藤慶二氏の和訳が付いた二百頁に亘る立派な著書で出版は東京目黒の永田書房である。以下本文より抜書きする。Zwei Raben fliegen im winterlichen Himmel. Eingang stiller Tag.

からす二羽 ゆったりととぶ 冬青空。

Fragen und Suchen sei der Sinn meines Lebens. Ein Weg im Nebel. 生きるとは 尋ねることよ 霧の中。その他沢山あるが紙面の都合で割愛させて頂く。

クリングゲ氏は1910年ベルリンに生れ、現在ミュンヘンに居住し、独日友好につとめておられる。俳句は元信州大学のツァハルト教授に習ったと云うが、この人は高浜虚子の弟子であったので、クリングゲ氏は虚子の孫弟子と自称している。ドイツの俳句は必ずしも季にこだわらぬ様だが、芭蕉や一茶に私叔している人も多い。クリングゲさんとの交流は改めて俳句道について考えさせられた。

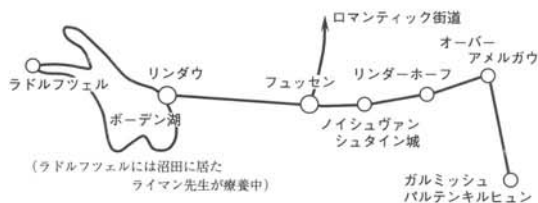


## フュッセンからガルミッシュへ

東京通信病院名誉院長 藤田 真之助

フュッセンはドイツ東南部のバイエルン州の南部、また東西に走るアルペン街道に沿い、オーストリアとの国境に近く、アルプスの麓にある。いくつもの湖に囲まれた古い静かな町である。なお、メイン川の中流に臨むヴェルツブルクから南に下る約250kmのロマンティック街道の終点でもある。

1984年6月、ボーデン湖の小島リンダウからこの町に着いた私たちは、小さな家庭的な宿ヒルシュホテルに別れを告げて街に出る。古い聖堂を眺めて、町外れから緩やかな坂道を辿る。可憐な花々が咲き乱れる森を過ぎると小高い丘に古い城が現れる。アウグスブルク司教の離宮だったホーエス城である。平らな外壁に描かれた窓の絵が立体的に見えて珍しい。その前庭からの眺望も素晴らしい。



車を駆ってロマンティック街道に出ると、森の中に真っ白なノイシュヴァンシュタイン城が望まれる。この城は薄幸のルードヴィヒ二世が1869年から17年もかけて完成したもので、楽聖ワグナーとの関係で有名である。

細雨の煙る街道を少しく北に向かい東に5kmほど行くと、静かな牧場の丘に小さなベージュ色のヴィース教会が目に入る。外観は地味だが、ドイツにおけるロココ建築の傑作の一つといわれ、一步堂内に入ると、金銀のロココ芸術のきらびやかさと壮麗さに驚かされる。

ここから南東へ道を辿ると、深い森の中に同じくルードヴィヒ二世が造った白いロココの城リンダーホーフがある。彫刻や噴水に飾られた庭園に小さな宮殿が立っており、その背後のネプチューンの泉からは勢いよく滝が流れ落ちている。

このすぐ東、山々に囲まれた小さな村オーバーアメルガウに入ると、外壁にフレスコ画が描かれた家々が目につく。この村はまた村人による「キリスト受難劇」で名高い。1632年のペスト流行の際、村がペスト襲来から救われたことを神に感謝して、その翌々年から10年ごとに演じられているという。

ここから南へ下るとすぐガルミッシュ・バルテンキルヒェンに着く。この町は南にドイツ最高峰の標高2966mのツークシュピッツェを望み、かつての冬季オリンピックのスキーチャンピオンが残っている。ここまで約2時間の旅であった。

[藤田先生はぐんま日独4周年大会の御来賓です(本紙6号)。フュッセン市は昨年9月沼田市と姉妹都市締結。(本紙12号)]

## 旅の思い出

前橋市 古屋 賀津子

湾岸戦争より少し前の話ですが、ヨーロッパへの往復には、どの位時間が掛るか、という事に多くの人の興味が注がれて居る風潮の中に在って、飛行機大好き人間の私は、所要時間にゆとりのある時一度でも良いから南廻りで帰って見たいと思って居りました。

願いがかなって、知り合いの旅行会社から南廻りで帰国するルートが見つかったという知らせが入った時は本当に喜びました。

往きは日航で、帰りはスカンジナビア航空で2人分取れたと通知が入ったのは、ヨーロッパへ立つ直前でした。アテネからバイルート・ダマスカス・バグダット・カラチ等々ですが、途中入れ替わり立ち替わり乗降する人々が、珍しく、眼だけを出したアラブの美女のスタイルの良さ、書物の中と空想の世界にしか知らなかった全く異質の文化に触れて、娘と二人倦むことを知らない状態でした。

特に給油の為に寄ったバグダットでは、全然機内から出る事を許されず、暑い国なのに、チャチな扇風機を何台も持ちこんで来たり、掃除をするのに大男が四人並んで入り、一つの事を四人でするのです。インド人で、カーブのため棚の上、座席、床とか、厳然として守って作業をするのには呆れたり、感心したりでした。正に所変われば品変わるです。

異国の飛行機に乗るのも珍しく、日本やアメリカのものと同質で、禁煙の席とお願いしたら、クルーの席に連れて行って下さり、我々は、離着陸の時しか腰かけないから、二人共、ゆったりくつろいで下さいとの事で、スチュワードの方が離陸の時に隣に参りますと、いろいろ説明して下さい、とても親切でした。同じ席に英人の母子が、案内されて来てカラチに赴任している父の所へ行くとの事で、若く美しい金髪の母親と、小さい紳士の坊や(7才)お人形のような(5才)と(3才)の幼いレディと長時間一緒に、持参した折り紙で鶴を折ってあげたり、よい時を過ごす事が出来ました。二度と逢う事はあり得ませんが、心細く乗って来た若い母親にとっても感謝されました。乗員の許しを得て日本語と英語で同じ歌を歌ったり至福の時だったものです。

この度、ハイジャック事件の事でお話を聞かせて頂けるとの事で、思わず、なつかしくて、ペンをとりました。

[来る4月14日の8周年記念講演にお紹きする道正邦彦氏は、福田内閣官房副長官時代ダッカでの赤軍ハイジャック事件解決のための政府代表団]

## ドイツ料理 味わってみませんか!!

前橋市 石坂 絵美子

### “ツヴィーベル・クーヘン（玉葱ケーキ）”

材料

- 玉葱（大）2個
- ベーコン 150g
- パイ生地（冷凍のもの大2枚）
- 生クリーム（ $\frac{1}{2}$ Cup）
- 卵 2個

- ① 玉葱は全部くし型にスライスする。
- ② ベーコンは1cm巾の小短冊に切っておく。
- ③ パイ生地は室温にもどし、めん棒でのばして、パイ皿にしきこんでおく。
- ④ フライパンにスライスした玉葱とベーコンを入れ、バターで、しんなりするまで、よく炒める。
- ⑤ 塩、こしょうを強めに味つけする。
- ⑥ ⑤の材料をさまし、生クリーム、とき卵を加えてまぜる。
- ⑦ パイ生地の上に⑥の材料を流しこむ。
- ⑧ 180℃のオーブンで、30分位、パイがパリっとするまで焼く（うすく、こげめがつくくらい）

## バッハ「マタイ受難曲」をきいて

沼田市 角田 勤

去る2月17日、高崎音楽センターで、ライブツィヒ・聖トーマス教会合唱団の「マタイ受難曲」を聴いて、久しぶりに大きな感動を覚えました。オーケストラは勿論、ゲヴァントハウス管弦楽団です。

冒頭から沸き上がる“Kommt, ihr Töchter” “Sehet” “Wen?” “den Bräutigam”…と繰り返される悲痛な合唱は、ダイレクトに、イエスがゴルゴダへ歩む情景へと我々を導きます。もう初めから、畏敬の念が湧いてきます。

ルター訳のマタイによる福音書26・27章を福音歌手が叙唱していく中を、合唱や15のコラールが中断、13曲の美しいアリアなどを挿入して全68曲、200分に及ぶ大作です。始めから終わりまで、全く緩むことのない緊張と、豊かな安らぎの音楽の連続に、私はなんと涙したことか。それは単に音楽を越えて、我々の魂に迫り救いへと導いてくれるメッセージがありました。

私がはじめて「マタイ」に接したのは昭和26年ころのこと。鯉沢の子持山学園で、日曜の午後にバッハのレコードコンサートをしていることを耳にし、教会の青年たちと自転車を出かけていったのを思い出します。「マタイ」は長い曲でしたが、迫力のある合唱や美しいアリアに感銘を受けました。毎回、深津文雄牧師の名解説があり、当時は長時間レコードが大変珍しい時代でもありました。

それ以来、私はすっかりバッハに魅せられてしまっております。若き日にはこの巨匠に巡り合えた幸せを、いま心から感謝せずにはおられません。

## 「ハイマート」編集小感

高崎市 朝雲 久児臣

13号の「ハイマート」が発行になる。この文章が載るときは“発行になった”ということになるが…。ぐんま日独が「ハイマート」という名前でのこのような会報のスタイルに変えてからは10回目に当たる。ひとつの形が定着したように思うが、読者はどんな感興を抱いているのだろうか。よい印象をもってくれるか、それとも、マンネリ化していると顔をしかめるか、編集者としては大いに気になるところである。

3号雑誌という言葉をご存じだと思う。3回発刊して後が続かなくなった雑誌、同人誌などのことだが、こうした類の紙誌は、継続して出していくにはかなりの努力と忍耐が必要になる。全国に数多くある地域の日独協会が、定期的に会報を発行できないのは、種々の理由があると思う。が問題は継続発行が極めて困難な仕事であることの実証といえなくもない。ぐんま日独が、年2回、8ページ建ての発行を可能にしているのは褒められてよいことである。自画自賛しているつもりはない。平形会長をはじめとする役員諸兄の高い文化的センスと、実際に手を染めている編集担当の熱意が、見事に調和しているからだと思う。さらに、それを抱擁してくれる会員と投稿者の人達がいるからこそ、続けることができるのだ。編集者としては、「ハイマート」を支えている人々に感謝をこめて、「自画自賛」していることを理解していただきたい。

しかし、この会報についての内容を振り返ってみると、“すべてよし”とはいえないところがある。すばらしい誌面構成の会報ができたことと喜んでいようと、次の号では、著しく評価を落とす「ハイマート」が顔を覗かせる。そんな傾向があるのはまだ「摸索」の状況を抜けきれていないからであろう。無理もないことで、プロの手を煩わすことなく、きちんとした編集方針も指示されなくて、集まった原稿だけを頼りに、手探りの編集を担当一人に任せている現状では、むしろよくまとめた「ハイマート」と称揚すべきなのかも知れない。伝記、小説、文明論などの執筆に明け暮れている物書きの編集者が、会長と担当に仕事を被せて、「編集小感」を書いていたのでは、反省すべき事柄はみんな私の方に逆流してくるような気持ちにさせられる。“ごめんなさい”と記すことによって、許しを乞わなければならない。お叱りでも、激励でも、身辺雑記でも、文芸でも、フレッシュな原稿の届くことを切望してやまない今の心境を、「編集小感」に託した次第である。

## ▷丸田前会長に贈る◁

東京の財日独協会では丸田芳郎会長から樋口廣太郎会長（略歴別項）となられた（1995.4.1）。丸田前会長は花王の社長としての手腕を日独交流にも十二分に発揮され、中曽根総理の時ベルリンの「旧日本大使館」を「ベルリン日独センター」として再出発させる偉業に貢献せられ、又全国日独協会連合会を結成して初代会長となられた。（1988）。特にぐんま日独協会としては、群大工学部出身、隣県長野生まれの御縁もあって、会員、知人、同窓生もあり、御懇篤なる御指導を頂き、1989.4.16の大会には、甲斐文比古初代ベルリン日独センター総裁を派遣された。又、釜治勇著「昭和天皇のご仁徳」を日、独、英、スペイン、語で発行され、花王K.K.から希望者に無料配布されました。ぐんま日独協会会員は欽慕して止まず、益々ご健勝で御高導下さいますことをお祈ります。（平形義人記）

### 新会長御紹介

樋口 廣太郎

（財）日独協会新会長（1995.4.1～現）

#### <経歴>

- 大正 15.1.25. (1926) 生
- 京都大学（経）卒（1949）
- 住友銀行代表取締役副頭取（1986）
- アサヒビールK.K.代表取締役社長（1986）
- ニッカウキスキーK.K.取締役（1987～現）
- アサヒビールK.K.代表取締役会長（1992～現）

#### <公職>

- 日経連常任理事（1989～現）
- ニュービジネス協議会会長（1994～現）
- 東京商工会議所産業経済委員長（1994～現）
- 経団連副会長（1995～現）
- （財政、金融委員長ヨーロッパ委員長）

## ぐんま日独協会 3周年記念講演会

◎演題 『ドイツと私』

◎講師 道正邦彦氏

大正9年10月9日福井県生まれ。

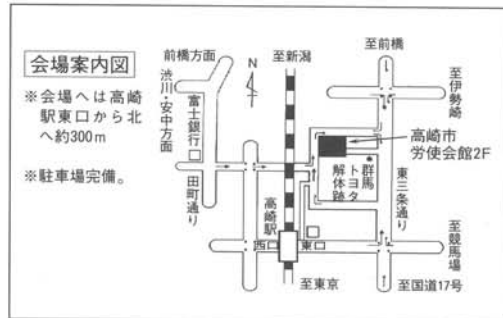
東京府立一中、旧制静岡高校を経て昭和19年9月東大法学部卒。昭和22年労働省に入省。昭和35年西ドイツ日本大使館書記官。昭和50年労働事務次官。昭和51年内閣官房副長官（福田内閣）。昭和54年中央職業能力開発協会理事長。昭和56年雇用促進事業団理事長。

現在身体障害者雇用促進協会会長及び全国技能士会連合会会長。財形住宅金融協会会長。グリェックアウフ会会長。財日独協会評議員

●日時 ▶ 4月14日（日）午後2～4時

●場所 ▶ 高崎市労使会館2F

高崎市東町80番地の1（下記案内図の通り）  
TEL 0273 (23) 1598



## お知らせ

### 【ドイツ弦楽三重奏の夕べ】

Deutsches Streich Trio

（ドイツ弦楽三重奏団群馬公演）

#### ■ドイツ弦楽トリオ

- ハンス・カラフス (ヴァイオリン)
- ユルゲン・ウェーバー (ヴィオラ)
- ライナー・ギンツェル (チェロ)

#### ■曲目

- F・シューベルト 弦楽三重奏曲第一番変ロ長調D・471
- N・アマーニ 弦楽三重奏曲作品1
- K・ペンデレッキ 弦楽三重奏曲
- L・V・ベートーヴェン セレナーデ ニ長調作品8

●日時 4月17日（水）午後7：00開演

●場所 前橋市民文化会館 大ホール

<チケット申し込み・お問い合わせ>

（株）煥乎堂 TEL 0272-35-8111  
・松田 030-348-7782

<入場券>

全席指定 S席4000円 A席3000円 学生席2000円

### 【伊賀あや ヴァイオリン演奏会】

●日時 9月16日（休日）午後2時半（開演）

●場所 前橋市民文化会館小ホール

<入場料> S ¥2500 A ¥2000 学 ¥1000

■曲目 ベートーヴェン ソナタNo.9（クロイツェル）

ビバルディ 四季より夏・秋

ウィニアウスキー 華麗なポロネーズ

チャイコフスキー スケルツォ風ワルツ

モンティ チャルダッシュ

その他 ポピュラー名曲多数

<申し込み、問合せ先> 佐藤 進一 (Tel0272-31-4019)

#### ◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。（800字以内）

◎原稿の返却は致しません。宛先は表紙参照。